



緑内障の手術について

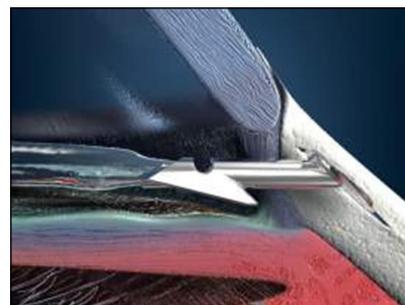
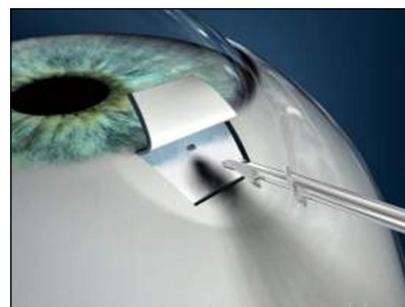
眼科医長：武田 憲治

緑内障手術で使用する新しいデバイスが登場しましたのでご紹介させていただきます。

緑内障は、視神経が障害され視野狭窄が起こる疾患で、我が国における失明原因の第1位を占めています。大規模な調査（多治見スタディ）によると、40歳以上の日本人の20人に1人の割合で緑内障の患者がいるということがわかっています。しかも、発見された緑内障の患者さんのうち、緑内障と診断されていたのは、全体の1割に過ぎず、これに気づかずに過ごしている人が大勢いることも判明しました。他の疾患と同様に、早期発見・早期治療が疾患の進行悪化の防止には重要です。

治療については、眼圧を下降させることが現在唯一のエビデンスに基づいた治療法とされています。まずは薬物療法、それが不十分であれば、レーザー治療や観血的手術となります。

観血的手術の中でも代表的なものが線維柱帯切除術（トラベクレクトミー）であり、線維柱帯に房水を眼外に流出させるための経路を作成します。今回登場したデバイスはその流出経路となるものです。



従来の線維柱帯切除術と比較して下記のような利点が報告されています。

- より簡便に房水流出経路を作成でき、規格化されたデバイスにより、一定量の房水の流出が予測可能である。
- 従来の線維柱帯切除術と同等の眼圧下降効果を示す。
- 低侵襲で炎症を発症する可能性が低く、また、術後の合併症が線維柱帯切除術と比較して少ない。
- 術中の眼圧変動が小さく、手術時間を短縮できる。
- 創傷部位の回復、および術後視力の回復が線維柱帯切除術と比較して早い。

当科でも導入し今後の治療成績をより改善していきたいと考えています。

眼科医長：武田 憲治

